

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも 百姓宣言

「被災地を訪ね、思う。」

【またしても自然災害の猛威・・・】

またしても甚大な大規模災害が続きました。大型台風21号が日本列島を襲った直後、最大震度7を観測した北海道胆振東部地震が発生。大阪北部地震、西日本豪雨災害の記憶も新しいなか、立て続けの災害に言葉を失いました。

被災により犠牲になられた方へ心よりお悔やみ申し上げます。被災地での生活や営農復旧・復興に全力を尽くすことをお約束します。

台風被害は、近畿や北陸地方だけでなく関東や東海地方、東北地方など広域に被害が及んでいます。現地視察で被災地を訪ねていますが、損壊した農業施設の撤去をどうするかといった状況であり、組合員の営農再開の展望はなかなか見通せない状況だということを感じました。北海道では、酪農経営の問題がメディアで大きく取り上げられました。台風による農業施設の損壊もひどい状況です。

激甚災害の指定が常態化しているように感じます。基本は被災された農家個々の実情に寄り添うことです。JAグループの地域を守る取り組みに頭が下がります。各地の営農再開への思いを原動力に変えて、国政に発信していきます。

【持続可能な農業政策の確立へ全力】

自民党の総裁選挙において安倍晋三候補が石破茂候補を破り三選を果たしました。農業政策の評価については様々な考えが皆さんにあると思います。自民党には多数の国会議員がいますが、多数いるからこそ自由で活発な議論が必要なはずです。

「農家が豊かさを実感できないということは、真の景気回復ではないのだ」という言葉が心に残っています。我々農家は個人の経営発展も必要ですが、何より地域農業を維持し、農業を後世に繋いでいくことを願っています。若者が夢と希望を持てる農業、農村や中山間の地域を守る農業者が安定し持続可能な農業を実現する政策が必要です。これは私の青年部時代からの信念であり、政治への志の原点です。新体制の下でも農業政策を検討する場です。しっかりと私の思いを届けていきます。



▲被災した地域を訪ねる

全国・県農政連推薦

参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

JA改革に関して自民党が決議

「久しぶりに快哉を叫びました」

3年前に、JA改革に関して政府・党・団体の三者会談で決定した我慢ならない措置について、今回、自民党がきちんと方向を決めました。

当時、規制改革推進会議の攻勢が強くなった中で、准組合員制度の改変と中央会の改廃のどちらを選ぶかを迫られたのです。

後刻、聞いた話では、団体側は、准組合員制度を守る立場で、中央会の廃止を受け入れたのですが、まさか、その中央会がこれまで非課税団体だったのに、課税団体になるとは思いもよらず、また、守った准組合員制度についても、その後、准組合員制度の事業利用に制限をかけることが打ち出されたのです。さらに、県中央会は連合会に移行することが出来るが、JA全中は、農協法から外され一般社団法人になり、中央会のJA監査事業も会計監査人監査へ移行します。

永年JA全中で仕事をし、そして多くの皆さんの支援を得て参議院議員になったものの、私は党の少人数幹部会（インナー）に入っていなかったため、三者会談に出席できず、どれほど悔しかったことか、涙を流しました。

「JAグループの自己改革の取り組みが評価された」

この議論を経て、3年経ち、JAグループは、JA自己改革の推進を全国運動として展開し、着実な成果を上げてきています。こうした中、来年には組織の転換を行わなければならないギリギリのところだ。

- ①中央会への課税は、従来通り行わないこと
- ②会計監査人監査への移行については、JAの負担が増加しないよう国の支援措置を講ずること
- ③准組合員の事業利用規制については、農協組合員の判断に基づくものとすること

私もインナーに加えていただき、しっかりと議論させていただきましたが、JAグループの自己改革への真摯な取り組み、そして、全国各地においてJAが大きな役割を果たし、無くてはならない組織であることが、改めて決議されたということです。

私も、これまでの3年間の懊悩が吹き飛びました。さらに頑張ります。



▲青年部の皆さんに国政報告